

研究情報公開(オプトアウト)

〔オプトアウトについて〕

本学で行う「人を対象とする研究」の中には、研究に協力いただく方や代諾者の方に研究目的や方法を説明し理解いただいた上で研究に対する同意をいただくものと、直接の説明や同意をいただく手続きが必要ないものがあります。直接の説明や同意をいただく手続きの必要がない研究については、国の指針に基づき、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされています。このような手法を「オプトアウト」と言います。

本学で実施している「人を対象とする研究」のうち、オプトアウトを用いた研究は下記のとおりです。研究への協力を希望されない場合は、それぞれの研究課題に記載されている研究担当者までお知らせください。

研究課題名：	若年成人女性における栄養素摂取量と末梢血エピゲノムの関連
所属：	中村学園大学 栄養科学部 栄養科学科
研究責任者：	末武勲（教授）
共同研究機関：	なし
研究期間：	令和3年10月～令和8年3月
研究目的と意義：	<p>近年、食生活環境の乱れにより、様々な疾患を引き起こすことがよく知られてきています。しかし、発症の前段階での変化についてはまだ明らかになっていません。それが明らかとなれば、食生活の指導により、効率よく体調を回復できる時期もあるかと期待でき、社会的意義は高いかと思われれます。</p> <p>これまで、本邦の若年学生を対象にした研究はないため、本研究で、食生活や環境の変化・違いによって、遺伝子発現制御機構の早い変化段階を見出すことができ、管理栄養士の食生活指導が新視点で、DNAメチル化変化の点から食事指導などをする基盤を作ろうとしています。</p> <p>近年、遺伝子発現制御情報の一つとして、いわば塩基が形成する文字情報上に蛍光マーカなどで印をつけ、遺伝子発現制御を行う機構(エピジェネティクス)が知られてきました。このエピジェネティクスは、様々な環境に応じて変化し、少なくとも部分的には可逆的です。しかし、その制御はまだ不明な点が多くあります。</p> <p>エピジェネティクス情報の一つに、ゲノムDNAを構成する塩基の化学修飾(シトシンのメチル化、ヒドロキシメチル化等)があります。このシトシンのメチル化は、遺伝子発現抑制に貢献するのが一般的です。本研究では、健康増進センターにて取得されたゲノムの一部領域の「シトシンのメチル化等の修飾」と、食(脂肪酸、葉酸、ビタミンDなど)との関連を調べます。</p> <p>これら研究により得られる情報をもって、将来的には、食生活をコントロールすることにより、健康の回復などの大きな課題に取り組もうとします。</p>

<p>研究内容：</p>	<p>研究対象者 健康増進センターにて、アンケートと同時に得た血液由来の「血球由来の単離ゲノム並び血清」が保管されている本学学生を研究対象とします。具体的には、センター長期計画(若年日本人の栄養・運動能の調査と長期予後の予測に関する研究(倫理-20-003))にて、収集した標品を使用します。 なお、本研究では、アンケート内容に加えて、興味ある血清中食品成分(または代謝物)濃度より、典型的な両極端の2集団(本学学生約10名程度)を見つけ、パイロット研究を行います。</p> <p>利用する試料・情報 健康増進センターで収集しているゲノムDNAを用いる。</p> <p>研究方法 試料として、既に単離しているゲノムを用い、そのエピゲノム情報をバイサルファイト法などにより、決定します。他の機関への試料、情報を提供することはありません。</p>
<p>お問い合わせ先：</p>	<p>【研究担当者】 氏名：中村学園大学 栄養科学部 栄養科学科 末武勲 (教授) 電話：092 (851) 6505 メール：suetake@nakamura-u.ac.jp</p>
<p>研究責任者よりひと言：</p>	